

# 高温に対する農作物技術対策

令和4(2022)年6月27日

下都賀農業振興事務所

気象庁発表の「2週間気温予報(令和4年6月27日)」によると、栃木県内は7月6日頃まで気温がかなり高くなる見込みです。

また、今後の降水量によっては、農業用水に不足が生じることも予想されますので、節水に心がけてください。

農作物の管理については、以下の技術対策により高温の影響を軽減するよう努めてください。

## I 普通作物

### 1 水 稲

- (1) 麦跡移植について、ガス湧きに注意し、水管理を行う。
- (2) 高温時に長期間湛水すると根腐れが発生しやすいので、こまめな間断かん水により根の健全化を図る。
- (3) 用水の確保が不十分な地域では、番水方式等水系ごとに調整を行う。また、特定のほ場でのかけ流しやネズミ穴等による漏水に注意し、節水に努める。
- (4) 出穂が早まると予想されるので、適切な穂肥の施用を行う。

### 2 大 豆

- (1) 播種後の除草剤(土壌処理剤)の散布においては、土壌水分(極端な乾燥状態は避ける)に留意する。

## II 野 菜

### 1 全 般

- (1) かん水できるほ場では積極的にかん水を行う。
- (2) 施設栽培(雨よけ栽培を含む)では、できるだけ換気を行い、必要に応じて遮光し、施設内の温度を下げる。
- (3) 収穫した野菜は、直射日光を避け、できるだけ涼しい所に置き(風が当たらない所)、鮮度を保つ(予冷庫があれば予冷庫に入れる)。
- (4) アブラムシ類、アザミウマ類が発生しやすいので、登録のある農薬で計画的に防除する。

### 2 いちご

- (1) 特に気温が高い午後を中心に、必要に応じて遮光を行う。また、育苗ハウスでは、換気量を増やしたり、換気扇を使用するなどして気温を下げる。
- (2) ポット育苗は乾燥しやすいので、朝夕のかん水等、かん水回数を多くし、むらのないように注意する。
- (3) 炭疽病、ハダニ類が発生しやすいので、登録のある農薬で計画的に防除する。

### Ⅲ 果 樹

#### 1 果樹全般

- (1) 草生園は土壌水分の競合を防ぐため、草刈りを行う。土壌水分保持のため、わらや草等でマルチを行う。
- (2) かん水ができるほ場では、かん水を行う。
- (3) ハダニ類が発生しやすいので、登録のある農薬で計画的に防除する。

#### 2 ハウスぶどう

- (1) 高温乾燥が続くと果実の老化が早まるおそれがあるので、果実品質を確認しながら適期収穫を行う。

### Ⅳ 花 き

#### 1 全 般

- (1) 露地栽培においても、かん水できるほ場では、積極的にかん水を行う。
- (2) 施設栽培では、必要に応じて遮光、換気を増やし、施設内の温度を下げる。
- (3) ハダニ、アザミウマ等が多発しやすいので、発生初期に登録のある殺虫剤で防除する。

### Ⅴ 畜 産

#### 1 畜舎の暑熱対策

- (1) 遮光ネット、よしず、グリーンカーテン等により直射日光の侵入を防ぐ。
- (2) 屋根に石灰、白ペンキ、断熱塗料を塗装し、畜舎内の温度の上昇を抑える。
- (3) 壁面や窓を開放し風通しをよくする。風の流れを妨げる障害物は移動する。
- (4) 扇風機は、外気を取入れ風が一方向に流れるように、また家畜の体感温度を下げるため、家畜の体（牛の場合、首や肩等の上半身）に風が当たるように配置する。
- (5) ファンにクモの巣やホコリが付着すると送風効率が下がるので、ファンを清掃する。
- (6) 屋根に散水する。屋根が高温になる前から散水するのが効果的。
- (7) 細霧装置を設置する。送風と組み合わせるとより効果的。

#### 2 飼料給与・飼養管理対策

- (1) 家畜の行動をよく観察し、異常家畜の早期発見・早期治療に努める。
- (2) 密飼いを避け、体感温度と家畜のストレスを低減する。
- (3) 乳牛、繁殖牛等は夜間放牧を行う。
- (4) 畜舎環境を良好に保ち、アンモニアやハエの発生を防ぐ。
- (5) 牛では上半身を中心にバリカンで毛刈りを行い体熱を放散させる。
- (6) 温湿度計（THIメータ）を設置し、家畜の暑熱ストレスを把握する。
- (7) 新鮮な冷水が十分に飲めるよう配慮する。
- (8) 水槽やウォーターカップを清掃し、水垢を除去する。
- (9) 良質で消化性の良い飼料、細断した粗飼料、ビタミンやミネラルを給与する。

- (10) 泌乳牛に重曹等の緩衝材を給与し、ルーメン内のpH低下を抑える。
- (11) サイレージの二次発酵、加水TMR飼料の変敗に注意する。
- (12) 飼料は涼しい時間帯に給与する。給与回数を増やし、採食量の低下を抑える。
- (13) 飼槽の清掃、エサ寄せをこまめに行う。

7月～8月は「農作業中の熱中症による死亡事故」が集中します。

夏の農作業で、以下のことに気をつけましょう。



- 日中の気温の高い時間帯の作業は控えましょう。
- こまめな休息、水分補給を行いましょ。
- 体調不良の症状がみられたら、すぐに作業を中断しましょ。